令和４年度　学校評価・後期報告書

愛南町立福浦小学校

アンケート結果の見方

4…あてはまる
3…おおむねあてはまる　→　肯定評価

2…どちらかと言えばあてはまらない
1…あてはまらない

【評価基準】A:目標を達成　B:8割以上達成　C:6割以上達成　D:6割未満

上段は令和4年度中間期
下段は令和4年度後期

重点目標	評価項目	評価指標・目標値	評定	考察（◇）及び改善方策（◆）	評価資料	個別評定	肯定率	アンケート結果（%）4	3	2	1	?
1 確かな学力を育てる教育の推進	①基礎学力の定着	**評価指標** 「読み・書き・計算」の基礎学力が身に付いている。 **目標値** ⑴　児童アンケート「授業はよく分かりますか。」の肯定率90% ⑵　児童アンケート「コンピュータなどを使った学習は楽しいですか。」の肯定率90% ⑶　児童アンケート「コンピュータなどを使った授業は、分かりやすいですか。」の肯定率90% ⑷　児童アンケート「学習用端末を１日に２回以上使っていますか。」の肯定率90% ⑸　児童の国語科・算数科の単元テスト 平均正答率80%	B ↓ B	◇⑴「授業がよく分かるか」の質問について、中間期にはマイナス評価が見られたが、今回は全ての児童が肯定評価となっている。⑸の国語科・算数科の単元テストでも、平均正答率80%を超えた児童が増え、改善が見られた。極小規模校の利点である個に応じた指導や、学習用端末を活用した授業改善を継続した成果だと考える。 一方、本校児童の学力を観点別に捉えると、知識・技能はある程度身に付いているものの、それらを活用して問題を解いたり、表現したりすることは苦手な傾向にある。思考力・判断力・表現力を身に付けさせるためのさらなる授業改善が必要であることが分かる。 ◆個に応じた指導や学習端末の活用を継続し、基礎的・基本的な学習内容の定着を図るとともに、本校児童の課題である思考力・判断力・表現力の育成に向けて、さらなる授業改善や手立ての工夫を行っていく必要がある。自力解決の時間を保障すること、対話や表現の場を意図的に設定すること等に取り組んでいく。また、学習端末の効果的な活用についての研修を継続し、児童の学力向上につなげていきたい。	⑴児童ア・2-①	A	100	56	44	0	0	－
					⑵児童ア・2-②	A	100	100	0	0	0	－
					⑶児童ア・2-③	B	89	78	11	11	0	－
					⑷児童ア・2-④	A	100	100	0	0	0	－
					⑸テスト	C	平均正答率80点を超えたサンプルの割合64%					
					国語テストで平均80点超え　３名 算数テストで平均80点超え　６名 国語・算数７名ずつ　計14サンプルのうち （３＋６）÷14×100=64%							
	②読書習慣の定着	**評価指標** 読書の習慣を身に付けている。 （１日10分以上、１週間累計60分以上） **目標値** ⑴　保護者アンケート「お子さんは、読書の習慣が身に付いていますか」（１日10分程度、１週間60分程度）の肯定率80% ⑵　児童(生活調べ)の「１日10分以上の読書」の達成率　80%	C ↓ C	◇保護者アンケートでは、読書の習慣が身に付いていると回答した割合が中間期に比べて減っている。評価４の回答をした家庭は増えたが、評価１の回答をした家庭も同じく増えている。児童の家庭学習状況調査の結果を見ると、高学年になるにつれて読書の習慣は身に付いている。10月に図書委員会の取組として行った読書集会で、図書室の利用を啓発したところ、11月の図書室の利用数が増え、合わせて一日10分以上の読書の達成回数が増えている。 ◆家庭での読書時間が少ない児童には、図書委員や学級担任から図書室の利用や読書の呼び掛けを行い、積極的に本に親しめるようにする。家庭の協力を得るために、学校での図書委員会の取組や読み聞かせの様子などを、ホームページや学校だより等で積極的に発信し、啓発を続ける。朝の活動や給食後の時間を利用しての読書活動を継続するとともに、ふだんはなかなか読まないような本を並べ、新たな本との出会いを作っていく。	⑴保護者ア・１	C	55	22	33	33	12	－
					⑵生活調べ	D						
					各月（９～12月）の家庭生活学習調べにおける計24回の「１日10分以上の読書」で、調査回数の80%にあたる20回以上で達成した児童は３名 ３÷９×100＝33%							

1 確かな学力を育てる教育の推進	③家庭学習の定着	**評価指標** 家庭学習の習慣が身に付いている。 （毎日低学年20分以上・中学年40分以上・高学年60分以上） **目標値** ⑴　保護者アンケート「お子さんは、家庭学習の習慣が身に付いていますか」の肯定率　80% ⑵　児童アンケート「毎日、決められた時間、家で勉強していますか（土日も）」の肯定率80% ⑶　児童（生活調べ）の達成率　80%	B ↓ B	◇⑶の生活調べによると、目標学習時間を達成できた児童数は５名（１減）、もう少しで目標達成の児童が２名、改善が必要な児童が２名という状況である。目標学習時間を達成している児童は、家庭での読書への取組、就寝や睡眠の状況も良好な場合が多く、反対に達成できていない児童は他の面でも改善が必要なことが多い。個々の状況に応じて、家庭での時間の使い方や宿題への取り組み方を指導する必要がある。 ◆家庭での時間の使い方は、生活リズムと深く関わっているため、児童への指導とともに、保護者への啓発や協力の呼び掛けも継続して行っていく必要がある。学校保健委員会や保健だより、学校だより等も活用しながら改善を図っていく。 また、児童の意欲化を図るために、学習端末等も活用しながら、個に応じた課題や自主学習にも取り組むよう指導していく。そして、その取組をしっかりと見取り、励ましながら、学習習慣の定着につなげていく。	⑴保護者ア・２	B	78	45	33	22	0	－
						⑵児童ア・３	A	100	67	33	0	0	－
						⑶生活調べ	D						
						各月（９～12月）の家庭生活学習調べにおける計24回の「目標学習時間超え」で、調査回数の80%にあたる20回以上で達成した児童は５名 ５÷９×100＝55%							
2 豊かな心を育てる教育の推進	④道徳教育の充実	**評価指標** 「考え、議論する道徳」が展開できるよう、道徳科授業の充実を図っている。 **目標値** ⑴　児童アンケート「道徳の時間で、いろいろな考えを話し合うことができましたか」の肯定率90% ⑵　教職員アンケート「問題解決的な学習や体験的な学習を取り入れ、考え議論する道徳科の充実を図ったか。」の肯定率90%	A ↓ B	◇中間期のＡから、Ｂの評価へと下がっている。教職員アンケートの肯定率が低下したためである。２学期は人権・同和教育参観日を実施し、道徳についての研修を行ってきたが、十分な実践にはつながっていないと思われる。 　本校では、算数科を中心教科に据え、対話的な学びの授業実践の研究を行ってきた。その中で、深め合う話合いの持ち方が本校の課題となって出てきている。それが、道徳の取組にも同じように影響していると考えられる。 ◆少人数でありながら他者と対話・議論し、多様な考えに触れられるような授業展開や指導方法の工夫についての研修に取り組んでいく。算数科だけでなく道徳科でも実践していけるように推進していく。	⑴児童ア・４	A	100	78	22	0	0	－
						⑵教職員ア・１	B	71	14	57	29	0	－

	⑤あいさつ・返事運動の推進	**評価指標** 相手の目を見て「あいさつ・返事」ができる児童が育っている。 **目標値** ⑴　保護者アンケート「お子さんは、気持ちのよいあいさつや返事ができていますか。」の肯定率90% ⑵　地域住民アンケート「子どもたちは、気持ちのよいあいさつや返事ができていますか。」の肯定率90% ⑶　児童（あいさつチェックカード）の肯定率90%	A ↓ A	◇保護者の肯定率が中間期の85%から78%に下がっており、全体を見ても「４」の評価が下がっている。学校やその周辺、決まった場面ではあいさつができるが、学校の外や休日などでは、あまりできていないのではと考えられる。 ◆あいさつや返事の指導を継続しているが、学校だけではなく、学校の外でも同様に行えるように指導していく。家庭や地域と連携して質を高めていくことが必要である。	⑴保護者ア・３	B	78	56	22	22	0	－	各月（９～12月）のあいさつチェックカードにおける計20回の調査で、調査回数の90%にあたる18回以上で達成した児童は９名 ９÷９×100＝100%
					⑵地域ア・１	A	95	68	27	0	0	－	
					⑶児童カード	A							
２ 豊かな心を育てる教育の推進	⑥家族の一員としての手伝いの推進	**評価指標** 家族の一員として、自分にできる手伝いをしようとする意識が育っている。 **目標値** ⑴　保護者アンケート「お子さんは、自分にできる手伝いをしようとする意識が育っていますか」の肯定率80% ⑵　児童アンケート「家族の一員として、自分にできる手伝いができていますか」の肯定率80% ⑶　児童の「生活調べ」での手伝い達成率　80%	B ↓ B	◇児童・保護者アンケートの肯定率は高いものの、生活調べでは、手伝いの目標を達成できた児童は４名（３減）、もう少しで目標達成の児童が３名、改善が必要な児童が２名という状況であり、課題が残った。 ◆児童に対しては、各教科や道徳科の学習等を通して、家族の一員としての役割について考えさせる。また、どのような手伝いが考えられるかを全体で話し合わせ、自分に合った具体的な行動目標の設定、実践につなげたい。保護者に対しては、これらの取組を知らせ、家庭での見守りや声掛け、称揚につなげる。	⑴保護者ア・４	B	89	67	22	11	0	－	各月（９～12月）の家庭生活学習調べにおける計24回の「家庭での手伝い」で、調査回数の80%にあたる20回以上で達成した児童は４名 ４÷９×100＝44%
					⑵児童ア・10	A	100	78	22	0	0	－	
					⑶生活調べ	D							

	⑦規範意識の醸成	**評価指標** 交通ルールをはじめとする社会のきまりやマナーを守っている。 **目標値** ⑴　保護者アンケート「お子さんに『やれることやる』『だめなものはだめ』がきちんとできるように注意していますか」の肯定率90% ⑵　児童アンケート「きまりをきちんと守っていますか」の肯定率90% ⑶　地域住民アンケート「子どもたちは、交通ルールをはじめとする社会のきまりやマナーを守っていますか」の肯定率90%	A ↓ A	◇中間期と比較し、保護者の肯定率が89%から100%に向上している。継続的にきまりやルールを遵守することを指導した結果と考えられる。また、交通ルールについては、横断歩道ソングを通して児童だけではなく家庭にも意識付けがされたものと考える。 ◆きまりやルールを守ることの意識付けや指導を今後も継続していく。特に来年度は新入生が入学してくることもあり、もう一度、児童・教職員で校内外のきまりやマナーについて確認し、全員が同じ意識を持って生活できるようにする。	⑴保護者ア・５　A　100　33　67　0　0　－ ⑵児童ア・５　A　100　100　0　0　0　－ ⑶地域ア・２　A　100　59　36　0　0　5
３ 健やかな体を育てる教育の推進	⑧健康的な生活習慣の確立	**評価指標** 早寝・早起き・朝ごはんの習慣が身に付いている。 **目標値** ⑴　保護者アンケート「お子さんは、各家庭で決めた『寝る時刻』を守り、『早寝』の習慣が身に付いていますか。」の肯定率90% ⑵　児童アンケート「家で話し合って決めた『寝る時刻』を守れていますか」の肯定率90% ⑶　児童の「生活調べ」での「家庭で決めた目標就寝時刻」の達成率　80% ⑷　保護者アンケート「お子さんは、朝食をとる習慣が身に付いていますか。」の肯定率　90% ⑸　児童の「朝食チェックカード」の朝食摂取率　85%	B ↓ B	◇「朝ごはん」については、保護者、児童共に肯定率は100%となっており、朝ごはんを食べる習慣は身に付いていると考えられる。 ◇「早起き」については、健康観察結果からみても守れている児童が多い。しかし、「早寝」については、保護者の肯定率は66%と低く、児童は肯定率100%と意識のずれがある。調査の際に、家庭で決めた就寝時刻について、保護者と児童の間で共有されていないことも考えられる。また、生活調べの結果を見ると、目標就寝時刻をしっかり守り、早寝の習慣が身に付いている児童は少ないことが分かる。 ◆「朝ごはん」については毎朝食べているため、引き続き朝ごはんを摂ることの大切さについて指導していく。また、朝ごはんの内容についても健康に過ごすためには大事なことであること等を学級指導や保健だより等で児童に指導したり、家庭へ啓発したりしていく。 ◆就寝時刻については、家庭で決めた時刻の確認を保護者、児童共に行うよう働き掛ける。児童に対して、一人一人の実態に即した指導を学級担任や養護教諭から行う。特に守りにくい児童については、指導したことを保護者とも共有し、家庭での指導にもつなげられるようにする。	⑴保護者ア・6-①　C　66　22　44　22　12　－ ⑵児童ア・8　A　100　67　33　0　0　－ ⑶生活調べ　D ⑷保護者ア・6-②　A　100　78　22　0　0　－ ⑸児童カード　A ⑶　生活調べ 各月（９～12月）の家庭生活学習調べにおける計28回の「目標就寝時刻」で、調査回数の80%にあたる23回以上で達成した児童は４名 ４÷９×100＝44% ⑸　朝食チェックカード 各月（９～12月）の朝食チェックカードにおける計20回の「朝食摂取」で、調査回数の85%にあたる17回以上で達成した児童は９名 ９÷９×100＝100%

	⑨体力づくりの推進	**評価指標** 教科体育の充実（放課後活動含む)や「えひめ子どもスポーツITスタジアム」への参加により、運動・外遊びに親しむ児童が育っている。 **目標値** ⑴　児童アンケート「体育の授業、放課後の運動、外遊びなど運動をがんばっていますか。」の肯定率90% ⑵　保護者アンケート「お子さんは外遊びや運動に親しんでいますか。」の肯定率　90%	B ↓ B	◇中間期同様に、児童と保護者の間で差が大きくなっている。陸上やマラソンに対して苦手意識のある児童がいるため、親しむという点において肯定的な評価とならなかったのではないかと考えられる。 ◆体育科の授業では、ITスタジアムのチームリレーに取り組むなど、様々な運動を実践し意欲化を図った。実践の結果、指導に工夫が必要だと感じた。そこで、走ることと、投げる、跳ぶ動作を混ぜた運動を取り入れるなど指導を工夫している。今後も様々な運動や動きを実際に体験し、体を動かすことの楽しさを味わわせ、進んで運動したり遊んだりしようとする意欲につなげたい。	⑴児童ア・６	A	100	89	11	0	0	－
					⑵保護者ア・７	C	67	34	33	33	0	－
4 その他	⑩特別支援教育の充実	**評価指標** 個別の指導計画を生かし、きめ細やかな指導・支援に努めている。 **目標値** ⑴　教職員アンケート「児童一人一人の実態をしっかりと把握して、きめ細かな指導・支援に努めたか」の肯定率90%	A ↓ A	◇教職員の肯定率は、中間期に引き続き100%である。少人数の特性を生かし、きめ細やかな指導が実践できる環境が整っているためであると考える。また、個人の課題についても教職員間で共通理解を図り、課題解決に向けて、全職員で取り組めていることが、数値に表れていると考えられる。 ◆今後も一人一人に応じたきめ細やかな指導を継続し、児童の能力を向上させていくよう共通理解を図っていく。しかし、手をかけすぎて、すぐに教師や支援員にアドバイスを求めてしまう実態もあるため、授業展開の中に自力解決の時間を取り入れるなどの工夫を取り入れていく必要がある。	⑴教職員ア・２	A	100	43	57	0	0	－

	⑪生徒指導の徹底	**評価指標** いじめを絶対に許さない・見逃さない学校づくりに努め、楽しく学校生活を送っている。 **目標値** ⑴　教職員アンケート「いじめは絶対に許さない、見逃さない学校づくりに努めたか」の肯定率90% ⑵　児童アンケート「学校は楽しいですか」の肯定率90% ⑶　保護者アンケート「お子さんは、楽しく学校生活を送っていると思いますか」の肯定率90%	A ↓ A	◇教職員、児童、保護者ともに肯定的な評価となっている。上級生が下級生に思いやりの気持ちを持って接していることが多く、良い手本として学校全体に良い影響を与えていると考えられる。 ◆思いやりの気持ちを持っている反面、下級生がそれに慣れてしまい、何をしても許してもらえるという雰囲気にならないように、児童同士ではあっても、学年や年齢の上下の関係や線引きはしっかりと意識付けを行っていく。	⑴教職員ア・３	A	100	71	29	0	0	－
					⑵児童ア・１	A	100	100	0	0	0	－
					⑶保護者ア・８	A	100	33	67	0	0	－
4 その他	⑫防災教育の充実	**評価指標** 災害等に対する自助・共助の力を育てる安全教育に家庭と連携して取り組んでいる。 **目標値** ⑴　教職員アンケート「災害等に対する自助・公助の力を育てる安全教育を確実に実施しているか」の肯定率90% ⑵　児童アンケート「火事や地震・津波のとき、自分や友達の命を守る行動がとれていますか」の肯定率90% ⑶　保護者アンケート「学校は、自助・共助の力を育てる安全教育に取り組んでいますか」の肯定率90%	A ↓ A	◇教職員、児童、保護者の全てで肯定率100%となり、高い評価結果となっている。 今年度は、新たな取組として、授業参観の後に避難訓練（地震・津波）を実施し、保護者や地域の方々に児童の訓練の様子を見ていただくとともに、訓練に一緒に参加していただいた。また、全校児童と教職員で防災散歩を行い、地域内にある防災倉庫の数か所の場所や経路を確認した。 総合的な学習の時間には、３年生以上の児童が防災倉庫の中の物資を確認したり、自主防災会や防災対策課の協力を得ながらテントを自分たちの力で設営したりした。体験を伴う学びにより、防災への知識を高めることができた。 しかし一方では、繰り返し行っている避難訓練では、緊張感に欠ける態度が見られることもあり、課題を残した。 ◆避難訓練と並行して、地震や津波の被害等についての学習を丁寧に行う必要がある。また、想定を工夫することにより、児童と教職員一人一人が緊張感と切迫感を持って訓練に取り組み、自分で考えて命を守る行動がとれるようにしていく。	⑴教職員ア・４	A	100	100	0	0	0	－
					⑵児童ア・７	A	100	100	0	0	0	－
					⑶保護者ア・９	A	100	67	33	0	0	－

	⑬教職員としての資質・能力の向上	**評価指標** 研修や自己研鑽に努めている。 **目標値** ⑴　教職員アンケート「研修や自己研鑽に努めたか」の肯定率　90％	A ↓ A	◇教職員の肯定率は100％に達しているが、「４　あてはまる」と回答している割合は中間期に比べて低下している。様々な行事等の中でも、研究主題や研修内容を常に意識して、指導力を向上させるために自己研鑽に努める体制づくりが必要ではなかったかと考える。 ◆校内研修会等を活用して、それぞれの実践を検証・共有し、全教職員で組織的に研修に取り組んでいく。また、校外での研修にも積極的に参加し、個々の資質・能力を高めるとともに、その学びを全員で共有する場を確保するよう努める。一人１台の学習端末の扱いについては、児童・教師とも随分と慣れてきた。今後は、授業での効果的な活用方法について、校外の情報を積極的に取り入れながら研修を推進していく。	⑴教職員ア・５	A	100	29	71	0	0	－
４ その他	⑭開かれた学校づくり	**評価指標** 学級通信や各種たより、ホームページ等を通して、情報発信に努めている。 **目標値** ⑴　教職員アンケート「ＣＳとしての取組や児童の様子を各種通信やホームページ等で月に１回以上発信したか。」の肯定率90％ ⑵　保護者アンケート「学校は、通信やホームページ等で学校の取組や児童の様子を積極的に発信していると思いますか」の肯定率90％ ⑶　地域住民アンケート「学校は、通信やホームページ等で学校の取組や児童の様子を積極的に発信していると思いますか」の肯定率　90％	A ↓ A	◇４評価と３評価で多少の変動はあるものの、教職員、保護者、地域の全てで肯定率100％の高い評価となっている。ホームページや学校だより等を積極的に活用して、児童の様子や学校の経営方針について情報発信に努めた成果だと考える。 ◆ホームページや学校だより等での情報発信を今後も継続する。また、学校だよりの内容を更に充実させ、行事等の紹介だけでなく、学校が抱える課題について情報共有するとともに、啓発のための情報も掲載しながら、学校と家庭、地域が一体となって解決に力を注げる環境づくりに努めていく。	⑴教職員ア・６	A	100	57	43	0	0	－
					⑵保護者ア・10	A	100	78	22	0	0	－
					⑶地域ア・３	A	100	82	18	0	0	4

⑮ふるさとを愛する心の育成	**評価指標** ふるさと（地域・海）について学ぶ授業、地域の達人に学ぶ授業（地域人材の活用）、地域とともに行う行事（運動会、自主防災会との避難訓練等）の充実に努めている。 **目標値** ⑴　教職員アンケート「地域の方に教わる授業（ふるさと学習や体験学習等）や、地域の方と一緒に行う活動（運動会、防災学習等）の充実や、積極的な交流・連携に努めたか」の肯定率90% ⑵　児童アンケート「地域の方に教わったり、一緒に活動したりする学習は楽しいですか」の肯定率90% ⑶　保護者アンケート「学校は、地域の方に教わる授業（ふるさと学習や体験活動等）や、地域の方と一緒に行う活動（運動会、防災学習会等）の充実に努めていると思いますか」の肯定率90% ⑶　地域住民アンケート「学校は、地域の方に教わる授業（ふるさと学習や体験活動等）や、地域の方と一緒に行う活動（運動会、防災学習会等）の充実に努めていると思いますか」の肯定率90%	A ↓ A	◇教職員、児童、保護者、地域全てのアンケートで肯定率100％の高い評価結果となっている。 　コロナ禍ではあったが、その状況に負けず、児童にできる限りの豊かな体験をさせるという考えで教育活動を展開した。延期になっていた運動会は、大勢の地域住民の参加を得て10月に実施することができた。また、海学習や防災学習、地域の達人に学ぶ授業、公民館や社協と連携した活動などにも積極的に取り組み、ふるさとや地域とのつながりの中で学びを積み重ねることができた。 ◆来年度も、児童が豊かな体験を通して学びを積み重ねられるように教育活動を行っていく。その際、地域とのつながりをより重視し、地域人材を積極的に活用したり、公民館等の関係機関と連携したりしていく。今年度はコロナ禍の影響により活動が一定期間に集中してしまうことがあった。活動時期を見直し、ゆとりの中でじっくりと活動できるよう努める。	⑴教職員ア・７	A	100	100	0	0	0	－
					⑵児童ア・９	A	100	100	0	0	0	－
					⑶保護者ア・11	A	100	78	22	0	0	－
					⑷地域ア・４	A	100	82	18	0	0	－